

第三者評価結果入力シート（児童心理治療施設）

種別	児童心理治療施設
----	----------

①第三者評価機関名

一般社団法人 沖縄県社会福祉士会

②評価調査者研修修了番号

S18147
S2020198
14保B009
17保B009

③施設名等

名 称：	児童心理治療施設 ノアーズ・ガーデン
施設長氏名：	宮城 洋子
定 員：	入所30名 通所10名
所在地(都道府県)：	沖縄県
所在地(市町村以下)：	糸満市字大度1255
T E L：	098-851-7323
U R L：	http://yukokai.or.jp/noahsgarden
【施設の概要】	
開設年月日	2018/4/1
経営法人・設置主体（法人名等）：	社会福祉法人 友興会
職員数 常勤職員：	34 名
職員数 非常勤職員：	3 名
有資格職員の名称（ア）	社会福祉士
上記有資格職員の人数：	4 名
有資格職員の名称（イ）	精神保健福祉士
上記有資格職員の人数：	1 名
有資格職員の名称（ウ）	保育士
上記有資格職員の人数：	3 名
有資格職員の名称（エ）	公認心理師/臨床心理士
上記有資格職員の人数：	4名/ 3名
有資格職員の名称（オ）	看護師
上記有資格職員の人数：	1 名
有資格職員の名称（カ）	管理栄養士
上記有資格職員の人数：	1 名
施設設備の概要（ア）居室数：	個室(14室)、2人部屋(8室)、心理療法室(3室)、
施設設備の概要（イ）設備等：	面談室(4室)、クールダウン室(4室)、親子生活訓練室
施設設備の概要（ウ）：	調理室、医務室、事務室、通所心理治療室
施設設備の概要（エ）：	

④理念・基本方針

[1]理念

- (1) 子ども時代を子どもらしく生きることを支援する。
- (2) 常に子どもが愛されていると感じる関わりを追求する。
- (3) 子どもの最善の利益を常に追求する。

[基本方針]

- (1) どんな関わりも子どもの自己肯定感を高めることを常に考えて行う。
- (2) 子どもの権利擁護に努め、権利侵害防止に最大の注意を払う。
- (3) ユニットケアにより子どもとの距離感を縮め、子どもが見守られていると感じられる環境を整えていく。
- (4) 生活支援、心理治療、医療的ケア、教育等の各スタッフが協働し、総合的なチーム支援を行う。
- (5) 子どもを中心に、それを取り巻くあらゆる関係者、関係機関との情報共有を行い役割分担と協働により、より高度な治療的専門的ケアを目指す。
- (6) 職員研修及び各種会議等の充実強化を図り、職員の資質向上及び職員が本施設に誇りと希望を持って業務に取り組める職場づくりを目指す。

⑤施設の特徴的な取組

東京に本拠地を置く本体法人は、洪沢敬三氏を世話人総代とした経団連や各国駐日大使等が世話人となり、1954年に足立のセツルメント活動を行っていた方々によって設立された虚弱児施設がスタートである。その後、福井県の高齢者福祉事業へ活動の場を広げ、1965年に社会福祉法人友興会を設立し、現在では一都二県にて児童養護施設・特別養護老人ホーム等を運営している。法人理念に「地域とともに」を掲げ、児童から高齢者等、多様な福祉サービスの利用者の意向が尊重され、総合的な運営が提供できること等を目指している。当該施設は平成30年に県内唯一の児童心理治療施設として、自然豊かな環境に小学校・中学校の分校を併設した、心理治療と教育を一体的に提供できる環境を整備して開所された。

児童心理治療施設の基盤となる「総合環境療法」の考え方に基づいて、施設全体が治療の場としての支援を展開している。診療所が併設され、経験豊かな医師を委嘱し、子ども一人一人の状況に応じた丁寧な支援を目指している。

⑥第三者評価の受審状況

評価実施期間（ア）契約日（開始日）	令和 3年6月22日
評価実施期間（イ）評価結果確定日	令和 3年12月21日
前回の受審時期（評価結果確定年度）	初受審

⑦総評

◇特に評価の高い点

1. 多様な意見を発信しやすい組織風土が形成されている
施設長をはじめとする管理者は、職員との個別面談を定期的に行うことと共に、日常のコミュニケーションを密に行っている。複数の専門職から形成される職員集団に対して、施設長等は専門性を尊重し、職員の多様な意見を受け止める体制整備に取り組んでいる。
2. 学校と施設の緊密な連携が行われている
義務教育機関である小学校・中学校の分校と隣接した環境が整備され、毎日相互の職員間での申し送りを実施している。子どもの教育・支援に関する詳細なルールが共有され、子どもの状態変化に応じた対応が行われている。施設においては、学習環境の整備を行い、試験前には個別で学習の場を提供するなど細かい配慮をしている。また、希望する進学校を職員と一緒に調べて居室に張り出すなど、進路の自己決定ができるよう学校と施設の連携を深めた支援を行っている。
3. 児童の最善の利益を考慮した治療・支援を目指している
法人で作成された倫理綱領やガイドラインには子どもを尊重した治療・支援が明示されており、施設においても職員向けの「生活支援マニュアル」や子ども向けの「生活のルールブック」などに具体的に示した上で、実践にも反映されている。研修を通じた職員間での情報共有や定期的な状況の把握なども各職員によって熱心に取り組まれている。自立支援計画の策定には、4年生以上の子どもに対して「あなたの目標を教えてください」と記した用紙に記入してもらい、子どもの意向を把握する取り組みを行っている。策定した自立支援計画は子どもにわかりやすく表記し、理解してもらえよう工夫している。

◇改善を求められる点

1. 中・長期計画を策定する

開設4年目を迎えて、これまでの3年間を振り返り、今後のビジョンの構築、中長期計画の策定に向けて、検討を開始している。話し合いの機会を可能な限り設定し、早期の中・長期的なビジョンと計画の策定が構築されることが望まれる。

2. 「期待する職員像」を明確にする

定期的な施設長による個別面接を実施している。日常的にも職員一人一人とのコミュニケーションを深めており、職員が意見を表出できる環境の整備に努めている。職員マニュアルが詳細に策定され、具体的な行動指針は明確である。施設としての「期待する職員像」を明確にし、職員一人一人の目標管理の仕組みを構築することが望まれる。

3. 情報共有の深化を目指す

当施設は24時間体制で治療・支援を必要とする子どもに対し、専門性の高い多職種から構成される職員配置となっている。情報管理については細心の注意が払われ、会議体制の見直し等も行われているが、施設内での多岐にわたる会議等の決定事項や様々な連携内容が一人一人の職員に対して十分届かないことがある。治療・支援の効果を高めるためにも、現在の連携・協働体制をさらに深化させ、職員相互の信頼関係に基づいた情報共有の在り方について検討されることを期待したい。

⑧第三者評価結果に対する施設のコメント

新型コロナ禍で実施を繰り延べ、施設開設後約4年目で初めての第三者評価を受審させて頂きましたが、入所児童へのアンケートや職員への聞き取り調査含め、きめ細やかなご指導とご助言を頂きました。ご指摘頂いた、中・長期計画策定や「期待する職員像」の明確化に関する議論は運営会議において始めており、情報共有の深化についても、重要な課題と認識しているところであり、今後更に取り組みを進めてまいりたいと考えております。

受審を通して、当施設の役割を果たしていけるよう、改めて全職員で確認・共有する機会となったことを有難く思います。

⑨第三者評価結果（別紙）

第三者評価結果（児童心理治療施設）

共通評価基準（45項目） I 治療・支援の基本方針と組織

1 理念・基本方針

(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。	第三者 評価結果
<p>① 1 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。</p> <p><input type="checkbox"/> 理念、基本方針が法人、施設内の文書や広報媒体（パンフレット、ホームページ等）に記載されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 理念は、法人、施設が実施する治療・支援の内容や特性を踏まえた法人、施設の使命や目指す方向、考え方を読み取ることができる。</p> <p><input type="checkbox"/> 基本方針は、法人の理念との整合性が確保されているとともに、職員の行動規範となるよう具体的な内容となっている。</p> <p><input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、会議や研修会での説明、会議での協議等をもって、職員への周知が図られている。</p> <p><input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、わかりやすく説明した資料を作成するなどの工夫がなされ、子どもや保護者等への周知が図られている。</p> <p><input type="checkbox"/> 理念や基本方針の周知状況を確認し、継続的な取組を行っている。</p>	<p>b</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
【判断した理由・特記事項等】	
<p>理念等について分校の養護教諭が作成した手書きの掲示物を施設長室・児童用の玄関に掲示し、子ども・来客者への周知を図っている。又、事業計画に明記し、ホームページで紹介している。職務会等で唱和を行い、職員に対して周知を図っている。法人には倫理綱領と職員行動ガイドラインが策定されており、事業所の理念・基本方針は、法人の考え方を基本に策定されている。子どもや保護者向けにわかりやすい理念や基本方針の説明資料の作成と説明機会の提供が望まれる。</p>	

2 経営状況の把握

(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。	第三者 評価結果
<p>① 2 施設経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 社会福祉事業全体の動向について、具体的に把握し分析している。</p> <p><input type="checkbox"/> 地域の各種福祉計画の策定動向と内容を把握し分析している。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもの数・子ども像等、治療・支援のニーズ、潜在的に支援を必要とする子どもに関するデータを収集するなど、施設(法人)が位置する地域での特徴・変化等の経営環境や課題を把握し分析している。</p> <p><input type="checkbox"/> 定期的に治療・支援のコスト分析や施設入所を必要とする子どもの推移、利用率等の分析を行っている。</p>	<p>b</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
【判断した理由・特記事項等】	
<p>社会福祉事業の動向について、社会福祉法の改正、社会的養育ビジョンに基づく沖縄県社会的養育推進計画の把握・分析を行っている。入所児童数と暫定定員の試算を毎月実施し、運営委員会で共有し、受け入れ態勢の整備と事業運営のバランスを図っている。今後は、地域の福祉計画について連動した福祉サービスの提供に期待したい。</p>	

②	3 経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。	b
	<input type="checkbox"/> 経営環境や治療・支援の内容、組織体制や設備の整備、職員体制、人材育成、財務状況等の現状分析にもとづき、具体的な課題や問題点を明らかにしている。	○
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、役員(理事・監事等)間での共有がなされている。	○
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、職員に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 経営課題の解決・改善に向けて具体的な取組が進められている。	

【判断した理由・特記事項等】

経営課題や重点取組事項については、毎年度の事業計画・事業報告書に詳細に記載している。経営財務については、法人本部とクラウドで連携し共有している。経営状況や改善すべき課題について、施設長が理事会に出席することにより、法人本部役員等との情報共有を図っている。今年度より、今後の施設運営のあり方について討議を開始し、組織体制の見直しに着手している。さらなる組織課題の解決・改善に向けた具体的な取組に期待したい。

3 事業計画の策定

(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	第三者 評価結果	
①	4 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	c
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画において、理念や基本方針の実現に向けた目標(ビジョン)を明確にしている。	
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、経営課題や問題点の解決・改善に向けた具体的な内容になっている。	
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は必要に応じて見直しを行っている。	

【判断した理由・特記事項等】

開設4年目を迎えて、これまでの3年間を振り返り、今後のビジョンについて構築する話し合いの機会を設けた。その中で中・長期計画の策定に向けて、検討を開始している。話し合いの中で、多様な意見が提起され、それぞれに検討を深めている。話し合いの機会を可能な限り設定し、中・長期的なビジョンと計画の策定が構築されることが望まれる。

②	5 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	c
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画(事業計画と収支予算)に、中・長期計画(中・長期の事業計画と中・長期の収支計画)の内容が反映されている。	
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画は、実行可能な具体的な内容となっている。	○
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、単なる「行事計画」になっていない。	○
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	

【判断した理由・特記事項等】

前年度の事業報告書は詳細に策定されており、その評価・分析の下に毎年度の事業計画が策定されている。その策定過程には各部署の職員が参入し、資料の作成を実施している。今後は、中・長期的な計画を策定した上で、それを踏まえた数値目標等が設定された単年度の事業計画の策定が望まれる。

(2) 事業計画が適切に策定されている。

①	6 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	b
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員等の参画や意見の集約・反映のもとで策定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 計画期間中において、事業計画の実施状況が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて把握されている。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて評価されている。	
	<input type="checkbox"/> 評価の結果にもとづいて事業計画の見直しを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員に周知(会議や研修会における説明等が)されており、理解を促すための取組を行っている。	○

【判断した理由・特記事項等】

毎年度の事業報告書をまとめ、評価し改善点を明確にすることにより、次年度計画の策定に活用している。評価の際には、職員の意見を求め、運営会議・全体会議で検討を行っている。策定した計画については、全体会議で資料の配布・説明を行い周知を図っている。今後は報告書の作成・評価総括・次年度計画策定の手順書を策定することにより、職員の理解が深まり計画達成に繋がることを期待したい。

②	7 事業計画は、子どもや保護者等に周知され、理解を促している。	b
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容が、子どもや保護者等に周知(配布、掲示、説明等)されている。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を子ども会や保護者会等で説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を分かりやすく説明した資料を作成するなどの方法によって、子どもや保護者等がより理解しやすいような工夫を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画については、子どもや保護者等の参加を促す観点から周知、説明の工夫を行っている。	

【判断した理由・特記事項等】

策定された事業計画は、関係機関に提示され、周知を図っている。子どもや保護者については、入所時や入所中の子ども会議において事業概要を説明している。保護者に対しての配布や、保護者会の開催等については、検討課題として認識している。子どもや保護者の理解を深めるための資料作成の工夫について、今後の取り組みに期待したい。

4 治療・支援の質の向上への組織的・計画的な取組

(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。	第三者 評価結果	
①	8 治療・支援の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	b
	<input type="checkbox"/> 組織的にPDCAサイクルにもとづく治療・支援の質の向上に関する取組を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 治療・支援の内容について組織的に評価(C:Check)を行う体制が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 定められた評価基準にもとづいて、年に1回以上自己評価を行うとともに、第三者評価等を定期的に受審している。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析・検討する場が、施設として位置づけられ実行されている。	○

【判断した理由・特記事項等】

自己評価については毎年度実施し、治療・支援の内容について組織的に評価を行う体制を整備している。個別のケースに対する支援については、随時ケースカンファレンスを実施している。カンファレンスの結果を自立支援計画に反映している。第三者評価については今回初受審である。今回の結果等を基盤に、組織的なPDCAサイクルの好循環に繋げていくことを期待したい。

②	9 評価結果にもとづき組織として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	b
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析した結果やそれにもとづく課題が文書化されている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員間で課題の共有化が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果から明確になった課題について、職員の参画のもとで改善策や改善計画を策定する仕組みがある。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果にもとづく改善の取組を計画的に行っている。	
	<input type="checkbox"/> 改善策や改善の実施状況の評価を実施するとともに、必要に応じて改善計画の見直しを行っている。	

【判断した理由・特記事項等】

毎年度実施している自己評価について、運営会議で評価結果を分析することにより職務分掌の見直しを実施し、生活ルールブック等の改訂を行っている。評価結果の分析結果や課題を文書化し、職員間で共有することにより、職員参画のもとで改善策・改善計画の策定について取り組まれることを期待したい。

II 施設の運営管理

1 施設長の責任とリーダーシップ

(1) 施設長の責任が明確にされている。	第三者 評価結果	
①	10 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの施設の経営・管理に関する方針と取組を明確にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任について、施設内の広報誌等に掲載し表明している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任を含む職務分掌等について、文書化するとともに、会議や研修において表明し周知が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 平常時のみならず、有事(事故、災害等)における施設長の役割と責任について、不在時の権限委任等を含め明確化されている。	

【判断した理由・特記事項等】

施設長は、施設設立の準備段階から関与し、県内初の事業所開所に向けて取り組んできた。他県の施設長等に助言を求め、運営に取り入れることにより経営・管理に関する方針・取組を明確にし、事業計画の基本理念・基本方針にて表明している。昨年度発行した広報誌「箱舟だより」に施設長あいさつを掲載した。今後は不在時の権限委任等について明確にすることにより、職員の安心感を高める取組に期待したい。

②	11 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設長は、遵守すべき法令等を十分に理解しており、利害関係者(取引事業者、行政関係者等)との適正な関係を保持している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、法令遵守の観点での経営に関する研修や勉強会に参加している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、環境への配慮等も含む幅広い分野について遵守すべき法令等を把握し、取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、職員に対して遵守すべき法令等を周知し、また遵守するための具体的な取組を行っている。	○

【判断した理由・特記事項等】

施設長は、令和2年度全国児童心理治療施設協議会総会・施設長会に3回参加、県児童養護協議会へ3回参加することにより、最新の法令・情報の取得に取り組んでいる。職員への伝達研修も実施している。また雇用・労働関係について、社会保険労務士による施設内研修を行い、情報収集を図っている。今後は職員への更なる周知徹底や、環境分野への取組に期待したい。

(2) 施設長のリーダーシップが発揮されている。

①	12 治療・支援の質の向上に意欲をもちその取組に指導力を発揮している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設長は、治療・支援の質の現状について定期的、継続的に評価・分析を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、治療・支援の質に関する課題を把握し、改善のための具体的な取組を明示して指導力を発揮している。	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、治療・支援の質の向上について施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、治療・支援の質の向上について、職員の意見を反映するための具体的な取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、治療・支援の質の向上について、職員の教育・研修の充実を図っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、職員の模範となるように、自己研鑽に励み、専門性の向上に努めている。	○

【判断した理由・特記事項等】

施設長は、児童養護分野における経験・知識を活用し、治療・支援の質の向上について、職員に対するリーダーシップを発揮している。他施設の施設長からの助言や、研修に参加し、自己研鑽に努めている。子ども一人ひとりの状況を把握し、コミュニケーションを図り、運営会議において、各リーダーからの報告に対してアドバイスを行っている。職員の教育・研修について施設外・施設内研修を企画・実施している。今後は、治療・支援の現状を評価すること等により、さらなる質の向上に向け指導力を発揮されることを期待したい。

②	13 経営の改善や業務の実効性を高める取組に指導力を発揮している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、人事、労務、財務等を踏まえ分析を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、施設(法人)の理念や基本方針の実現に向けて、人員配置、職員の働きやすい環境整備等、具体的に取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、施設内に同様の意識を形成するための取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性を高めるために施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	

【判断した理由・特記事項等】

施設長は、人事、労務、財務等について、子どもの受入れ状況に基づく、運営費の変動を分析している。運営費の安定を図ることにより、人事・労務の安定化に努めている。夜間勤務については、夜勤体制を導入することにより職員の働きやすい環境整備に取り組んでいる。経営改善について、職員への周知を深め施設全体で取り組む意識形成の向上を図ることが望まれる。

2 福祉人材の確保・育成

(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。	第三者 評価結果	
①	14 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	b
	<input type="checkbox"/> 必要な福祉人材や人員体制に関する基本的な考え方や、福祉人材の確保と育成に関する方針が確立している。	○
	<input type="checkbox"/> 治療・支援に関わる専門職(有資格の職員)の配置等、必要な福祉人材や人員体制について具体的な計画がある。	
	<input type="checkbox"/> 計画にもとづいた福祉人材の確保や育成が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)として、効果的な福祉人材確保(採用活動等)を実施している。	○
	(5種別共通) <input type="checkbox"/> 各種加算職員の配置に積極的に取り組み、人員体制の充実に努めている。	○

【判断した理由・特記事項等】

加算配置の可能な職員配置、各専門職の正職員配置等、必要な人材・人員体制を積極的に確保する方針が確立している。措置費関連補助事業を積極的に活用し、非常勤職員等の雇用に繋げている。また、法人のホームページで採用活動を実施している。今後は、人員体制についての具体的な計画策定が望まれる。

②	15 総合的な人事管理が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 法人、施設の理念・基本方針にもとづき「期待する職員像等」を明確にし、職員自らが将来の姿を描くことができるような総合的な仕組みができています。	
	<input type="checkbox"/> 人事基準（採用、配置、異動、昇進・昇格等に関する基準）が明確に定められ、職員等に周知されている。	○
	<input type="checkbox"/> 一定の人事基準にもとづき、職員の専門性や職務遂行能力、職務に関する成果や貢献度等を評価している。	
	<input type="checkbox"/> 職員処遇の水準について、処遇改善の必要性等を評価・分析するための取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 把握した職員の意向・意見や評価・分析等にもとづき、改善策を検討・実施している。	

【判断した理由・特記事項等】

給与規程・就業規則を整備し人事基準を明確に定め、入職時の職員研修での読み合わせ等により職員への周知も行われている。夜間は夜勤体制を採用し、職員の働きやすい環境整備に尽力している。今年度、組織体制の変更に伴う異動・昇進等を実施した際には、対象となる職員に対して現状の評価に基づき対応を行った。今後は、施設の理念・基本方針に基づく「期待する職員像」を明確に策定し、職員自らが将来の姿をイメージできる取組について期待したい。

(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。

①	16 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 職員の就業状況や意向の把握等にもとづく労務管理に関する責任体制を明確にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員の有給休暇の取得状況や時間外労働のデータを定期的に確認するなど、職員の就業状況を把握している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員の心身の健康と安全の確保に努め、その内容を職員に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に職員との個別面談の機会を設ける、職員の相談窓口を施設内に設置するなど、職員が相談しやすいような仕組みの工夫をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員の希望の聴取等をもとに、総合的な福利厚生を実施している。	
	<input type="checkbox"/> ワーク・ライフ・バランスに配慮した取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 改善策については、人材や人員体制に関する具体的な計画に反映し実行している。	
	<input type="checkbox"/> 福祉人材の確保、定着の観点から、施設の魅力を高める取組や働きやすい職場づくりに関する取組を行っている。	

【判断した理由・特記事項等】

職員の就業状況や意向の把握のために、施設長による職員面談を定期的実施している。看護師をメンタルヘルス担当者に位置づけた「心の健康づくり計画」を策定し実施している。非常勤精神科医によるメンタルヘルス勉強会を実施することにより、職員の心身の健康と安全の確保に配慮している。職員の育児休業、年休等計画的な年休取得を推進しワーク・ライフ・バランスに配慮した取り組みを実施している。今後は人員配置について具体的な計画を策定し、働きやすく人材定着する職場づくりを期待したい。

(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。

①	17 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	c
	<input type="checkbox"/> 施設として「期待する職員像」を明確にし、職員一人ひとりの目標管理のための仕組みが構築されている。	
	<input type="checkbox"/> 個別面接を行う等施設の目標や方針を徹底し、コミュニケーションのもとで職員一人ひとりの目標(目標項目、目標水準、目標期限)が明確かつ適切に設定されている。	
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、中間面接を行うなど、適切に進捗状況の確認が行われている。	
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、年度当初・年度末(期末)面接を行うなど、目標達成度の確認を行っている。	

【判断した理由・特記事項等】

当施設では、定期的な施設長による個別面接を実施している。日常的にも職員一人一人とのコミュニケーションを深めており、職員が意見を表出できる環境の整備に努めている。職員マニュアルが詳細に策定され、具体的な行動指針が示されている。今後は施設としての「期待する職員像」を明確にし、職員一人一人の目標管理の仕組みを構築することが望まれる。

②	18 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設が目指す治療・支援を実施するために、基本方針や計画の中に、「期待する職員像」を明示している。	
	<input type="checkbox"/> 現在実施している治療・支援の内容や目標を踏まえて、基本方針や計画の中に、施設が職員に必要とされる専門技術や専門資格を明示している。	
	<input type="checkbox"/> 策定された教育・研修計画にもとづき、教育・研修が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に計画の評価と見直しを行っている。	
	<input type="checkbox"/> 定期的に研修内容やカリキュラムの評価と見直しを行っている。	

【判断した理由・特記事項等】

教育・研修計画は、年間計画に位置付けて実施されている。今後は「期待する職員像」を明確にすることにより、施設が目指す治療・支援の内容に応じた職員に求められる専門技術や専門資格を明示し、定期的な研修計画の評価・見直しに繋げていくことが望まれる。

③	19 職員一人ひとりの教育・研修等の機会が確保されている。	b
	<input type="checkbox"/> 個別の職員の知識、技術水準、専門資格の取得状況等を把握している。	○
	<input type="checkbox"/> 新任職員をはじめ職員の経験や習熟度に配慮した個別的なOJTが適切に行われている。	
	<input type="checkbox"/> 階層別研修、職種別研修、テーマ別研修等の機会を確保し、職員の職務や必要とする知識・技術水準に応じた教育・研修を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 外部研修に関する情報提供を適切に行うとともに、参加を勧奨している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが、教育・研修の場に参加できるよう配慮している。	○
	(5種別共通) <input type="checkbox"/> スーパービジョンの体制を確立し、職員の専門性や施設の組織力の向上に取り組んでいる。	

【判断した理由・特記事項等】

職員の研修は年間を通して計画的に実施されている。新型コロナウイルス禍によってオンライン研修が拡充されてきたことを背景に、業務多忙な各職員にとっては効率的に受講しやすくなっている。研修報告は資料の回覧や全体職務会にて共有されている。初任者研修は採用時に2日間、詳細な資料を踏まえて治療・支援面のみならず経営面も含めて周知されている。今後は、職員個々の経験や習熟度に応じた教育・研修の体制を構築することが望まれる。

(4) 実習生等の治療・支援に関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。

①	20 実習生等の治療・支援に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	b
	<input type="checkbox"/> 実習生等の治療・支援に関わる専門職の研修・育成に関する基本姿勢を明文化している。	
	<input type="checkbox"/> 実習生等の治療・支援の専門職の研修・育成についてのマニュアルが整備されている。	
	<input type="checkbox"/> 専門職種の特性に配慮したプログラムを用意している。	○
	<input type="checkbox"/> 指導者に対する研修を実施している。	
	<input type="checkbox"/> 実習生については、学校側と、実習内容について連携してプログラムを整備するとともに、実習期間中においても継続的な連携を維持していくための工夫を行っている。	○

【判断した理由・特記事項等】

開設してこれまでに間に臨床心理士を養成する実習生の受入れ実績があり、専門職種の特性に配慮したプログラムを踏まえながら、養成校と継続した連携のもとで協力している。実習生の指導は個々の職種、職員による対応で行われることが多く、施設としての実習生受入れについての基本姿勢の明文化やマニュアルが整備されることが望ましい。施設の特性或職員の勤務体制上、現時点では養成する専門職の種類が限定されているが、他資格の実習生の受入れの必要性も認識されており、今後は可能なところから受入れ体制を整備し実習生の受入れを広げることが期待される。

3 運営の透明性の確保

(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。	第三者 評価結果												
<table border="1"> <tr> <td data-bbox="359 313 1324 392">① 21 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。</td> <td data-bbox="1324 313 1444 392">b</td> </tr> <tr> <td data-bbox="359 392 1324 492">□ホームページ等の活用により、法人、施設の理念や基本方針、治療・支援の内容、事業計画、事業報告、予算、決算情報が適切に公開されている。</td> <td data-bbox="1324 392 1444 492">○</td> </tr> <tr> <td data-bbox="359 492 1324 571">□施設における地域の福祉向上のための取組の実施状況、第三者評価の受審、苦情・相談の体制や内容について公開している。</td> <td data-bbox="1324 492 1444 571"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="359 571 1324 649">□第三者評価の受審結果、苦情・相談の体制や内容にもとづく改善・対応の状況について公開している。</td> <td data-bbox="1324 571 1444 649"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="359 649 1324 750">□法人、施設の理念、基本方針やビジョン等について、社会・地域に対して明示・説明し、法人、施設の存在意義や役割を明確にするように努めている。</td> <td data-bbox="1324 649 1444 750">○</td> </tr> <tr> <td data-bbox="359 750 1324 817">□地域へ向けて、理念や基本方針、施設で行っている活動等を説明した印刷物や広報誌等を配布している。</td> <td data-bbox="1324 750 1444 817"></td> </tr> </table>	① 21 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	b	□ホームページ等の活用により、法人、施設の理念や基本方針、治療・支援の内容、事業計画、事業報告、予算、決算情報が適切に公開されている。	○	□施設における地域の福祉向上のための取組の実施状況、第三者評価の受審、苦情・相談の体制や内容について公開している。		□第三者評価の受審結果、苦情・相談の体制や内容にもとづく改善・対応の状況について公開している。		□法人、施設の理念、基本方針やビジョン等について、社会・地域に対して明示・説明し、法人、施設の存在意義や役割を明確にするように努めている。	○	□地域へ向けて、理念や基本方針、施設で行っている活動等を説明した印刷物や広報誌等を配布している。		
① 21 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	b												
□ホームページ等の活用により、法人、施設の理念や基本方針、治療・支援の内容、事業計画、事業報告、予算、決算情報が適切に公開されている。	○												
□施設における地域の福祉向上のための取組の実施状況、第三者評価の受審、苦情・相談の体制や内容について公開している。													
□第三者評価の受審結果、苦情・相談の体制や内容にもとづく改善・対応の状況について公開している。													
□法人、施設の理念、基本方針やビジョン等について、社会・地域に対して明示・説明し、法人、施設の存在意義や役割を明確にするように努めている。	○												
□地域へ向けて、理念や基本方針、施設で行っている活動等を説明した印刷物や広報誌等を配布している。													
【判断した理由・特記事項等】													
<p>法人の理念や基本方針、治療・支援の内容などの情報については、ホームページや事業報告で公開されている。広報誌も発行され、関係機関や学校といった連携する社会資源との情報共有は図られている。施設の特長や立地上、地域住民に対する周知は限定的となっている。今後は可能な範囲で周知を広げる取組の検討や、財務に関する情報についてもホームページなどで公開されることが望ましい。</p>													
<table border="1"> <tr> <td data-bbox="359 1131 1324 1209">② 22 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。</td> <td data-bbox="1324 1131 1444 1209">b</td> </tr> <tr> <td data-bbox="359 1209 1324 1288">□施設(法人)における事務、経理、取引等に関するルール、職務分掌と権限・責任が明確にされ、職員等に周知している。</td> <td data-bbox="1324 1209 1444 1288">○</td> </tr> <tr> <td data-bbox="359 1288 1324 1366">□施設(法人)における事務、経理、取引等について内部監査を実施するなど、定期的に確認されている。</td> <td data-bbox="1324 1288 1444 1366">○</td> </tr> <tr> <td data-bbox="359 1366 1324 1444">□施設(法人)の事業、財務について、外部の専門家による監査支援等を実施している。</td> <td data-bbox="1324 1366 1444 1444">○</td> </tr> <tr> <td data-bbox="359 1444 1324 1512">□外部の専門家による監査支援等の結果や指摘事項にもとづいて、経営改善を実施している。</td> <td data-bbox="1324 1444 1444 1512">○</td> </tr> </table>	② 22 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	b	□施設(法人)における事務、経理、取引等に関するルール、職務分掌と権限・責任が明確にされ、職員等に周知している。	○	□施設(法人)における事務、経理、取引等について内部監査を実施するなど、定期的に確認されている。	○	□施設(法人)の事業、財務について、外部の専門家による監査支援等を実施している。	○	□外部の専門家による監査支援等の結果や指摘事項にもとづいて、経営改善を実施している。	○			
② 22 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	b												
□施設(法人)における事務、経理、取引等に関するルール、職務分掌と権限・責任が明確にされ、職員等に周知している。	○												
□施設(法人)における事務、経理、取引等について内部監査を実施するなど、定期的に確認されている。	○												
□施設(法人)の事業、財務について、外部の専門家による監査支援等を実施している。	○												
□外部の専門家による監査支援等の結果や指摘事項にもとづいて、経営改善を実施している。	○												
【判断した理由・特記事項等】													
<p>施設における事務処理や経理等は、適切かつ速やかに処理されている。財務に関する監事監査は年1回実施、昨年度からの新型コロナウイルス禍の影響によりオンラインでの対応となっている。開設4年目で初年度より段階的に子どもを受け入れてきた経緯から、定員よりも少ない入所者数に応じた補助金等の特例を申請しつつ、職員配置を工夫する取り組みがなされている。職務分掌に基づいた権限・責任も明確に示されており、組織的な施設運営を試みている。現在、入所児童数の男女差による職員配置の不均衡が生じており、指示系統についての課題が職員間で認識されているなど、今後の条件整備が期待される。</p>													

4 地域との交流、地域貢献

(1) 地域との関係が適切に確保されている。		第三者 評価結果
①	23 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	c
	<input type="checkbox"/> 地域との関わり方について基本的な考え方を文書化している。	
	<input type="checkbox"/> 子どもの個別的状況に配慮しつつ地域の行事や活動に参加する際、必要があれば職員やボランティアが支援を行う体制が整っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設や子どもへの理解を得るために、地域の人々に向けた日常的なコミュニケーションを心がけている。	
	<input type="checkbox"/> 子どもの買い物や通院等日常的な活動についても、定型的でなく個々の子どものニーズに応じて、地域における社会資源を利用するよう推奨している。	
【判断した理由・特記事項等】		
<p>施設の特性や立地的な環境上の背景によって地域住民と日常的に交流する状況が限られている中で、小中学校の本校や近隣の少年院職員との交流、学生のボランティアの取り組みなど、可能な範囲で地域との交流を模索しながら取り組む努力がなされている。今後の取り組みとしてはさらなる地域との交流も想定し、基本的なかかわり方について文書化しておくことが望まれる。</p>		
②	24 ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	b
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れに関する基本姿勢を明文化している。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の学校教育等への協力について基本姿勢を明文化して取り組んでいる。	
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れについて、登録手続、ボランティアの配置、事前説明等に関する項目が記載されたマニュアルを整備している。	○
	<input type="checkbox"/> ボランティアに対して子どもとの交流を図る視点等で必要な研修、支援を行っている。	
【判断した理由・特記事項等】		
<p>「ノアーズ・ガーデンボランティア活動実施要項」が作成され、心理学専攻の学生を中心にボランティアを受け入れた実績はあるが、施設の特性上、地域住民を含めた幅広いボランティアの受け入れは行っていない。ボランティアに近い取り組みとしては、勤務の一環として近隣にある少年院から職員が派遣されるなど、外部との交流を試みている。ボランティアの立場が専門職ではないという観点からは、子どもとの交流を図る視点など、受け入れる際に必要な研修や支援の体制を構築しておくことが望まれる。</p>		

(2) 関係機関との連携が確保されている。

①	25 施設として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 当該地域の関係機関・団体について、個々の子どもの状況に対応できる社会資源を明示したリストや資料を作成している。	
	<input type="checkbox"/> 職員会議で説明するなど、職員間で情報の共有化が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 関係機関・団体と定期的な連絡会等を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の関係機関・団体の共通の問題に対して、解決に向けて協働して具体的な取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域に適当な関係機関・団体がいない場合には、子どものアフターケア等を含め、地域でのネットワーク化に取り組んでいる。	

【判断した理由・特記事項等】

児童相談所、児童養護施設、病院などと、その都度必要に応じたケースカンファレンスが開催されており、さらに入所及び退所後の支援などを踏まえた定期的な連絡会が設定されることにより、連携した取り組みが行われている。地域の関係機関についての情報は個々のケースに応じて職員会議等で共有されているが、今後は地域の社会資源が体系的に示されたリストや資料などを作成することで、効率的・効果的に情報が蓄積される仕組みを形づくることが望まれる。

(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。

①	26 地域の福祉ニーズ等を把握するための取組が行われている。	c
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)が実施する事業や運営委員会の開催、関係機関・団体との連携、地域の各種会合への参加、地域住民との交流活動などを通じて、地域の福祉ニーズや生活課題等の把握に努めている。	

【判断した理由・特記事項等】

学校など、施設運営上でかかわりのある範囲での地域との交流場面においては、福祉ニーズや生活課題等の把握がなされている。子どもの人権擁護や守秘義務といった施設の特性や職員配置の課題、地理的な立地条件などにより、地域住民との交流について制約された条件もあることから、現状としては幅広く福祉的ニーズを把握することは困難である。近隣地域の清掃活動のような地域の行事に可能な範囲で職員が協力して参加する取り組みは行われており、今後、このようなかかわりを継続することによって、必要な地域ニーズを把握する取り組みにつなげていくことが期待される。

②	27 地域の福祉ニーズ等にもとづく公益的な事業・活動が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズ等にもとづいて、法で定められた社会福祉事業にとどまらない地域貢献に関わる事業・活動を実施している。	
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズ等にもとづいた具体的な事業・活動を、計画等で明示している。	
	<input type="checkbox"/> 多様な機関等と連携して、社会福祉分野のみならず、地域コミュニティの活性化やまちづくりなどにも貢献している。	
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)が有する治療・支援に関するノウハウや専門的な情報を、地域に還元する取組を積極的に行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の防災対策や、被災時における福祉的な支援を必要とする人びと、住民の安全・安心のための備えや支援の取組を行っている。	

【判断した理由・特記事項等】

当施設では開設間もないために施設本来の業務の充実を図ることに尽力しており、社会福祉事業に留まらない地域の福祉ニーズに対する公益的な事業・活動を具体的に取り組むことは難しい状況にある。施設が有する治療・支援に関する専門的な情報を地域に還元する取り組みとして、他団体や学校などからの要請を受けた研修等の講師派遣やケースへのコンサルティングなどは行われており、引き続き施設の有する機能や専門的知見を活かした地域貢献に取り組むことが期待される。

Ⅲ 適切な治療・支援の実施

1 子ども本位の治療・支援

(1) 子どもを尊重する姿勢が明示されている。	第三者 評価結果	
①	28 子どもを尊重した治療・支援の実施について共通の理解をもつための取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針に、子どもを尊重した治療・支援の実施について明示し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した治療・支援の実施に関する「倫理綱領」や規程等を策定し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した治療・支援の実施に関する基本姿勢が、個々の治療・支援の標準的な実施方法等に反映されている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、施設で勉強会・研修を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、定期的に状況の把握・評価等を行い、必要な対応を図っている。	○

【判断した理由・特記事項等】

子どもを尊重した治療・支援については、法人で作成された倫理綱領やガイドラインに明示されており、施設においても職員向けの「生活支援マニュアル」や子ども向けの「生活のルールブック」などに具体的に示した上で、実践にも反映されている。研修を通じた職員間での情報共有や定期的な状況の把握なども、各職員によって熱心に取り組まれている。

②	29 子どものプライバシー保護に配慮した治療・支援が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どものプライバシー保護について、社会福祉事業に携わる者としての姿勢・責務等を明記した規程・マニュアル等が整備され、職員への研修によりその理解が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 規程・マニュアル等にもとづいて、プライバシーに配慮した治療・支援が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 一人ひとりの子どもにとって、生活の場にふさわしい快適な環境を提供し、子どものプライバシーを守るよう設備等の工夫を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等にプライバシー保護に関する取組を周知している。	○

【判断した理由・特記事項等】

「倫理綱領」や「ガイドライン」において子どものプライバシー保護が明記されており、これに基づく具体的な実践が取り組まれている。子どもの安全管理を目的とした防犯カメラが共有スペースには設置されているが、プライベートな場面が映り込まないように配慮されている。アルバム作成や外部コンクールへの応募など、個人情報の開示に当たっては併設する分校とも連携して対応されている。また、子ども同士のコミュニケーションにおいても、日頃から職員によって互いのプライバシーを尊重するための声かけが行われている。

(2) 治療・支援の実施に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。

①	30 子どもや保護者等に対して治療・支援の利用に必要な情報を積極的に提供している。	a
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針、治療・支援の内容や施設の特性等を紹介した資料を準備している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設を紹介する資料は、言葉遣いや写真・図・絵の使用等で誰にでもわかるような内容にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設に入所予定の子どもや保護者等については、個別に丁寧な説明を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 見学等の希望に対応している。	○
<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に対する情報提供について、適宜見直しを実施している。	○	

【判断した理由・特記事項等】

施設の基本理念や方針を中心に、治療・支援のために必要な情報は施設のパンフレットやホームページなどにわかりやすい表示で掲載されている。入所前の事前調整では児童相談所による入所調整に加えて、施設としても子どもや保護者等に対して事前の施設見学と個別の面接等を必須としており、施設の紹介、支援の方法、達成したい課題・目標の確認が行われ、必要な場合には体験入所が行われている。これらの情報提供のあり方については適宜見直しを実施している。

②	31 治療・支援の開始・過程において子どもや保護者等にわかりやすく説明している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもが自らの課題を可能な限り認識し、施設が行う治療・支援について納得し主体的に選択できるよう、よりわかりやすくなるような工夫や配慮をして説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 治療・支援の開始・過程における支援の内容に関する説明と同意にあたっては、子どもや保護者等の自己決定を尊重している。	○
	<input type="checkbox"/> 治療・支援の開始・過程においては、子どもや保護者等の同意を得たうえでその内容を書面で残している。	○
	<input type="checkbox"/> 意思決定が困難な子どもや保護者等への配慮についてルール化され、適正な説明、運用が図られている。	○

【判断した理由・特記事項等】

入所調整の段階から子ども自身に自らの課題を問いかけ、それを理解した上で治療・支援につなげる手続きを踏むことにより、主体的に参画できる状況を整えている。衝動性が高く暴言・暴力につながりやすい子どもの場合には、クールダウン室や頓服薬の活用、身体抑制の必要性などについて保護者も含めて事前に説明しており、あらかじめ「クールダウン室の利用及び居室制限を用いた治療支援にかかる同意書」を示し理解を求めている。また、保護者には児童の状況や治療内容についてスライド資料などを活用しわかりやすく説明することで、心理教育も兼ねた支援がなされている。

③	32 治療・支援の内容や措置変更、地域・家庭への移行等にあたり治療・支援の継続性に配慮した対応を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 治療・支援の内容の変更にあたり、従前の内容から著しい変更や不利益が生じないように配慮されている。	○
	<input type="checkbox"/> 他の施設や地域・家庭への移行にあたり、治療・支援の継続性に配慮した手順と引継ぎ文書を定めている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した後も、施設として子どもや保護者等が相談できるように担当者や窓口を設置している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した時に、子どもや保護者等に対し、その後の相談方法や担当者について説明を行い、その内容を記載した文書を渡している。	○

【判断した理由・特記事項等】

治療・支援の内容や措置変更、地域・家庭への移行といった生活に変更が生じる場面においては、連携する関係機関との間で丁寧な説明や資料提供を踏まえ、適宜会議を開催しつつ調整が図られている。退所後の支援としても、必要な場合は子どもに対する通所支援や移行先に対するコンサルテーションなどを行うことで、継続したアフターケアが提供されている。措置変更時の保護者への説明には慎重な対応が求められることから、十分検討された手順等の作成と着実な実施の必要性について認識されており、文書による対応等の改善が期待される。

(3) 子どもの満足の向上に努めている。		第三者 評価結果
①	33 子どもの満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査が定期的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもへの個別の相談面接や聴取等が、子どもの満足を把握する目的で定期的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員等が、子どもの満足を把握する目的で、子ども会等に出席している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査の担当者等の設置や、把握した結果を分析・検討するために、子ども参画のもとで検討会議の設置等が行われている。	
	<input type="checkbox"/> 分析・検討の結果にもとづいて具体的な改善を行っている。	
【判断した理由・特記事項等】		
<p>子どもの満足を把握する取り組みとしては、年2回のアンケートとともに、個別の面接などを通して定期的に行われている。子ども会議を設置し職員も参加することで意見聴取する場を設けており、その他、意見箱の活用により第三者委員を通じた把握もなされている。子どもからの意見の内容によっては具体的な改善につなげられない内容もあることから、判断を見極めた上で、改善可能な対応については引き続き取り組まれることが期待される。</p>		
(4) 子どもが意見等を述べやすい体制が確保されている。		
①	34 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	c
	<input type="checkbox"/> 治療・支援の実施等から生じた苦情に適切に対応することは責務であることを理解し、苦情解決の体制(苦情解決責任者の設置、苦情受付担当者の設置、第三者委員の設置)が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情解決の仕組みをわかりやすく説明した掲示物が掲示され、資料を子どもや保護者等に配布し説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情記入カードの配布やアンケート(匿名)を実施するなど、子どもや保護者等が苦情を申し出しやすい工夫を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情内容については、受付と解決を図った記録を適切に保管している。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情内容に関する検討内容や対応策、解決結果等については、子どもや保護者等に必ずフィードバックするとともに、苦情を申し出た子どもや保護者等のプライバシーに配慮したうえで、公開している。	
	<input type="checkbox"/> 苦情相談内容にもとづき、治療・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	○
【判断した理由・特記事項等】		
<p>苦情対応の仕組みが整備され、子どもや保護者に対してわかりやすく掲示されている。意見箱を子どもには共有スペース、保護者には玄関に設置することで第三者委員としての苦情対応の窓口を設置するとともに、法人としても併せて苦情対応の窓口を設置している。このことの周知について子どもに対しては資料配付も行われているが、保護者にも資料として配布できるように期待したい。施設内や個々に対してフィードバックは行われているが、外部公開については公開内容を精査したり、苦情がない場合にはその事実を示すなど、情報公開のあり方について検討することが望まれる。</p>		

②	35 子どもが相談や意見を述べやすい環境を整備し、子ども等に周知している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもが相談したり意見を述べたりする際に、複数の方法や相手を自由に選べることをわかりやすく説明した文書を作成している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に、その文書の配布やわかりやすい場所に掲示する等の取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 相談をしやすい、意見を述べやすいスペースの確保等の環境に配慮している。	○

【判断した理由・特記事項等】

施設においては、支援員、心理士、医師といった専門職ごとに子どもが複数の方法や相手を選んで相談ができる体制を整え、「生活のルールブック」などの書面を通して子どもや保護者に適切に伝えられており、必要な面接室も確保されている。施設の特性上、子どもの課題や目標への取組みについて対応する観点から、子どもの相談や意見を受け付ける窓口としてユニット内の担当職員を設定している。状況によってはユニットリーダーや治療課長が対応しており、相談する職員を自由に選ぶことには治療上制限がある。子どもの意見表出の環境整備について、職員間の適切なコミュニケーションを踏まえた情報共有や連携・協力が必要とされており、さらなる向上が期待される。

③	36 子どもからの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	b
	<input type="checkbox"/> 職員は、日々の治療・支援の実施において、子どもが相談しやすく意見を述べやすいように配慮し、適切な相談対応と意見の傾聴に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 意見箱の設置、アンケートの実施等、子どもの意見を積極的に把握する取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 相談や意見を受けた際の記録の方法や報告の手順、対応策の検討等について定めたマニュアル等を整備している。	
	<input type="checkbox"/> 職員は、把握した相談や意見について、検討に時間がかかる場合に状況を速やかに説明することを含め迅速な対応を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 意見等にもとづき、治療・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 対応マニュアル等の定期的な見直しを行っている。	

【判断した理由・特記事項等】

職員は子どもが自らの意見をきちんと表明できるよう指導を行いつつ、担当職員が子どもの様子を把握し意見を聴取しやすいよう配慮している。子どもに対しては年に2回、CAPワークショップにて安心・安全アンケートを実施、暮らしに対する意見の聴取が行われている。各ユニットに設けられている意見箱は月2回確認し対応を急ぐ必要のある内容から検討を行い、子どもに回答している。時間を要する内容については子どもへその旨を説明している。第三者委員の訪問は2か月ごとで、意見箱の内容を報告している。今後は要望への回答を迅速に協議できる体制づくりや、現在の対応策の知見を踏まえたマニュアルの策定について期待したい。

(5) 安心・安全な治療・支援の実施のための組織的な取組が行われている。		第三者 評価結果
① 37 安心・安全な治療・支援の実施を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	<input type="checkbox"/> リスクマネジメントに関する責任者の明確化(リスクマネジャーの選任・配置)、リスクマネジメントに関する委員会を設置するなどの体制を整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 事故発生時の対応と安全確保について責任、手順(マニュアル)等を明確にし、職員に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの安心と安全を脅かす事例の収集が積極的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 収集した事例をもとに、職員の参画のもとで発生要因を分析し、改善策・再発防止策を検討・実施する等の取組が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員に対して、安全確保・事故防止に関する研修を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 事故防止策等の安全確保策の実施状況や実効性について、定期的 に評価・見直しを行っている。	
		b
【判断した理由・特記事項等】		
<p>施設では「クールダウン室の利用に関する取り扱い要領」を策定し、子どもの行動制限を伴う治療・支援の目的と実施方法について検討を重ねている。実施の際は施設長への報告・承認を得る手順が記され、これまでの事例をもとに事故の発生要因の分析や改善策を検討し、子ども同士のトラブルによる受傷者を防ぐ取り組みが行われている。子どもの安全を守ることで職員が受傷するケースがあるため、安全確保と事故防止に関する専門研修を積極的に受講させている。積極的なヒヤリハット事例の収集と実効性の高いリスクマネジメント体制への取り組みを今後もさらに期待したい。</p>		
② 38 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	<input type="checkbox"/> 感染症対策について、責任と役割を明確にした管理体制が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を作成し職員に周知徹底するとともに、定期的に見直している。	○
	<input type="checkbox"/> 担当者等を中心にして、定期的に感染症の予防や安全確保に関する勉強会等を開催している。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防策が適切に講じられている。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症が発生した場合には対応が適切に行われている。	○
		a
【判断した理由・特記事項等】		
<p>感染症予防対策委員会を設置し、新型コロナウイルス対策を主に昨年度から対応マニュアルを作成している。対策会議では施設長や医療職を中心に施設の感染症対策体制が明記され、家族との面会・外泊前後の対応や日常の諸注意を協議している。対策会議の内容は職員へ周知し、実施とフィードバックを通して対応マニュアルの見直しを続けている。感染症対策についての新しい情報は会議等で報告され、職員への周知が行われている。感染症の発症があった際には、施設内でまん延しないよう対策が講じられている。</p>		

③	39 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 災害時の対応体制が決められている。	○
	<input type="checkbox"/> 立地条件等から災害の影響を把握し、発災時においても治療・支援を継続するために「事業継続計画」(BCP)を定め、必要な対策・訓練等を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 子ども及び職員の安否確認の方法が決められ、すべての職員に周知されている。	○
	<input type="checkbox"/> 食料や備品類等の備蓄リストを作成し、管理者を決めて備蓄を整備している。	○

【判断した理由・特記事項等】

台風時の対応体制についてマニュアルを作成、安否確認の方法が定められ、職員へ周知している。施設の消防計画を策定し、地元の消防へ提出している。毎月の防火避難訓練は、子どもを驚かせないように考慮して事前に周知を行った下で実施している。災害時に備えた備蓄のリストが作成され、保管期限の管理が行われている。立地上、台風や大雨で職員が通勤しにくくなる場合があり、子どもへの影響を少なくするために宿泊場所の整備や職員配置への配慮を行っている。今後は様々な災害を想定した事業継続計画の策定や、必要な職員体制の工夫等についてさらなる改善を期待したい。

2 治療・支援の質の確保

(1) 治療・支援の標準的な実施方法が確立している。	第三者 評価結果	
①	40 治療・支援について標準的な実施方法が文書化され治療・支援が実施されている。	b
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法が適切に文書化されている。	○
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法には、子どもの尊重や権利擁護とともにプライバシーの保護に関わる姿勢が明示されている。	○
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法について、研修や個別の指導等によって職員に周知徹底するための方策を講じている。	○
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法にもとづいて実施されているかどうかを確認する仕組みがある。	○

【判断した理由・特記事項等】

施設での治療・支援については「生活支援マニュアル」を策定し、職員や子どもへ繰り返し周知を行っている。マニュアルには職員から子どもに対する禁止事項があり、被措置児童虐待防止の視点に加えてプライバシーの保護について明記されている。マニュアルの内容が実施できていない場合は会議等で検討される仕組みがあり、職員同士でも話し合いを行っている。マニュアル内容の徹底については継続して取り組んでおり、今後の改善に期待したい。

②	41 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	b
	<input type="checkbox"/> 治療・支援の標準的な実施方法の検証・見直しに関する時期やその方法が施設で定められている。	
	<input type="checkbox"/> 治療・支援の標準的な実施方法の検証・見直しが定期的に実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、自立支援計画の内容が必要に応じて反映されている。	
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、職員や子ども等からの意見や提案が反映されるような仕組みになっている。	○

【判断した理由・特記事項等】

マニュアルの検証は常に職員間で意識されており、子どもの特性や背景を踏まえた生活支援マニュアルの必要性が話し合われ、今年度は内容の見直しに着手している。施設新設から4年目のマニュアル改定であり、見直しの時期やその方法に関する規定、自立支援計画の内容との関わりについては、今後の改善が望まれる。

(2) 適切なアセスメントにより自立支援計画が策定されている。

①	42 アセスメントにもとづく個別的な自立支援計画を適切に策定している。	a
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画策定の責任者を設置している。	○
	<input type="checkbox"/> アセスメント手法が確立され、適切なアセスメントが実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 部門を横断したさまざまな職種の関係職員(種別によっては施設以外の関係者も)が参加して、アセスメント等に関する協議を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画には、子ども一人ひとりの具体的なニーズ、具体的な治療・支援の内容等が明示されている。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を策定するための部門を横断したさまざまな職種による関係職員(種別によっては組織以外の関係者も)の合議、子どもの意向把握と同意を含んだ手順を定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 支援困難ケースへの対応について検討し、積極的かつ適切な治療・支援が行われている。	○

【判断した理由・特記事項等】

自立支援計画は治療課長の総括の下、アセスメントには児童相談所の意見も踏まえ、施設の多職種による専門的な見地を生かした情報収集と分析が行われている。自立支援計画の策定前には四年生以上の子どもに対して「あなたの目標を教えてください」と記した用紙に記入してもらい子どもの意向を把握する取り組みを行っている。策定した自立支援計画は、子どもにわかりやすく表記し理解してもらえるよう工夫している。困難な課題については精神科医のスーパービジョンを受けつつ治療・支援を行う体制を整えている。隣接する学校とは援助方針のすり合わせを行っている。より適切なアセスメントの実施について追及していけるよう、今後も多職種間のより緊密な連携による総合的治療視点の深化を期待したい。

②	43 定期的に自立支援計画の評価・見直しを行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画どおりに治療・支援が行われていることを確認する仕組みが構築され、機能している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の見直しについて、見直しを行う時期、検討会議の参加職員、子どもの意向把握と同意を得るための手順等、組織的な仕組みを定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 見直しによって変更した自立支援計画の内容を、関係職員に周知する手順を定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を緊急に変更する場合の仕組みを整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の評価・見直しにあたっては、標準的な実施方法に反映すべき事項、治療・支援を十分に実施できていない内容(ニーズ)等、治療・支援の質の向上に関わる課題等が明確にされている。	○

【判断した理由・特記事項等】

自立支援計画の実施状況は日々の治療・支援で確認が行える体制を整えている。計画について半年ごとに見直しを行う仕組みが機能しており、必要時には児童相談所との会議を開いて緊急に計画内容の変更を行っている。自立支援計画の内容にはアセスメントの結果、現段階で十分対応できていない内容等についても記載があり、今年度中の改定を目指している生活支援マニュアルの内容と関連する記述が含まれている。多職種がそれぞれの専門的知見を生かし、常に子どもの最善の利益とは何かを考え、治療・支援に取り組んでいることがうかがえる。

(3) 治療・支援の実施の記録が適切に行われている。

①	44 子どもに関する治療・支援の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもの身体状況や生活状況等を、施設が定めた統一した様式によって把握し記録している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画にもとづく治療・支援が実施されていることを記録により確認することができる。	○
	<input type="checkbox"/> 記録する職員で記録内容や書き方に差異が生じないように、記録要領の作成や職員への指導等の工夫をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設における情報の流れが明確にされ、情報の分別や必要な情報が的確に届くような仕組みが整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 情報共有を目的とした会議の定期的な開催等、部門横断での取組がなされている。	○
	<input type="checkbox"/> パソコンのネットワークシステムの利用や記録ファイルの回覧等を実施して、施設内で情報を共有する仕組みが整備されている。	○

【判断した理由・特記事項等】

生活の記録はネットワーク上に保管され、必要時に閲覧できる仕組みが整えられている。ユニット内では子どもに悪影響を及ぼさないよう配慮して、交代勤務の職員が状況把握できるための細やかな連携記録をとる工夫をしている。自立支援計画の実施状況についても確認することができる。記録についての勉強会が施設内で行われ、情報共有を円滑にするため会議体制の見直しを実施している。施設内での様々な情報を共有し、職員一人一人へ的確に届けられる仕組みづくりについては、今後のさらなる改善を期待したい。

② 45 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	b
<input type="checkbox"/> 個人情報保護規程等により、子どもの記録の保管、保存、廃棄、情報の提供に関する規定を定めている。	
<input type="checkbox"/> 個人情報の不適正な利用や漏えいに対する対策と対応方法が規定されている。	○
<input type="checkbox"/> 記録管理の責任者が設置されている。	○
<input type="checkbox"/> 記録の管理について個人情報保護の観点から、職員に対し教育や研修が行われている。	○
<input type="checkbox"/> 職員は、個人情報保護規程等を理解し、遵守している。	○
<input type="checkbox"/> 個人情報の取扱いについて、子どもや保護者等に説明している。	

【判断した理由・特記事項等】

法人の個人情報保護規程、文書保存規程があり、個人情報保護管理者、記録の保管・保存と情報提供に関して取り決めがなされている。就業規則にも個人情報の管理・保管についての記載があり、これらの内容は職員に周知されている。心理士と医師の記録については閲覧制限を行っており、一定の手続きを得て閲覧する仕組みが取られている。学校に作品展示を行う際には、保護者への確認をとっている。保護者からの記録開示請求には対応している。個人情報の廃棄に関する項目を規程に追加することや、子どもへ個人情報の管理について説明する取り組みは、今後の改善が期待される。

内容評価基準（20項目）

A-1 子どもの最善の利益に向けた治療・支援

(1) 子どもの尊重と最善の利益の考慮	第三者 評価結果
<p>① A1 一人ひとりの子どもの最善の利益を目指した治療・支援が、総合環境療法を踏まえた多職種連携の取り組みで実践されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 自立支援計画に、子どもの課題の解決に向けて福祉、心理、医療、教育の連携による総合的治療・支援方針が策定され、支援が行われている。</p> <p><input type="checkbox"/> 職員が日々の治療・支援について振り返り、子どもの最善の利益の観点から、必要に応じて助言を受けられる環境や相互研鑽ができる体制が整っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 個々の子どもに心理治療担当を配置し、必要に応じて個別心理療法および集団によるコミュニケーション活動及び表現活動を実施している。</p> <p><input type="checkbox"/> 精神科的医療ケアの必要な子どもに対して必要に応じて、児童精神科医等の診療を実施している。</p> <p><input type="checkbox"/> 重篤なケースについては、入院治療が必要になる場合に備え、外部の医療機関と連携し、必要に応じて話し合い等を行っている。</p>	<p>b</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
<p>【判断した理由・特記事項等】</p>	
<p>自立支援計画は施設内の多職種に加え、学校との合同連絡会も踏まえ策定されている。毎月、施設内の診療所の医師による診察を受けることができ、職員はスーパービジョンを受けて子どもの状態像について情報共有を図る体制がある。一人一人の子どもに心理士が心理療法を実施、児童相談所での検査結果も加えて施設での治療目標を検討している。必要な場合は、外部の医療機関と連携して子どもの入院治療への対応を行っている。各専門職がそれぞれ子どもの最善の利益とは何かを考えて議論を重ね、総合環境療法をより望ましい形で実現しようと努力している。さらに、各専門職の力を生かし施設が丸となって取り組む治療・支援方針として自立支援計画をまとめあげるマネジメント力の発揮に期待したい。</p>	
<p>② A2 子どもと職員との間に信頼関係を構築し、生活体験を通して発達段階や課題を考慮した支援を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもから相談を受けたり生活場面でのことについて、個別に話し合ったりする機会や一緒に活動する時間を確保している。</p> <p><input type="checkbox"/> 施設生活において多種多様な生活体験（創作活動など）を通して、ものごとを広い視野で具体的、総合的にとらえる力や、豊かな情操が育まれるような活動が組み込まれている。</p> <p><input type="checkbox"/> 個々の子どもの発達段階や課題に応じて、日課は出来るだけ柔軟に対応している。</p> <p><input type="checkbox"/> つまずきや失敗の体験を大切に、行動上の問題等があった場合も背景にある心理的課題の把握に努め、自己を向上発展させるための態度が身に付けられるよう支援している。</p> <p><input type="checkbox"/> 問題の解決に当たって、謙虚に他から学び、他と協力していける力量や態度を形成できるようグループ活動などを取り入れ支援している。</p>	<p>b</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
<p>【判断した理由・特記事項等】</p>	
<p>子ども一人一人に担当の心理士と支援員が割り振られ、個別に生活の中での出来事や言動について話し合える体制を整えている。コロナ禍の中においても感染対策に注意しながらアートダンスや心理劇、創作活動を取り入れ、手づくりの窯で焼いたピザパーティーを開いて子どもの生活体験を広げる取り組みを行っている。子どもにとって失敗と思える体験についても丁寧に振り返りを行い、現在の課題の把握と次の段階への足がかりにできるよう支援している。定期的にユニット会議を開き、生活についての話し合いを通し複数の人と協力をする態度や、きちんと意見を表明できるように職員が支援をしている。日常生活ではルールを守ることを徹底し、日課の柔軟性については子どもの発達段階や課題を考慮しているが、さらなる対応力の向上を図ることを期待したい。</p>	

③	A3 子どもの発達段階に応じて、さまざまな生活技術が身に付くよう支援している。	b
	□大人と一緒に買物をする体験、一人で買物をする体験などを通して、経済観念や店員とのやり取りなど地域生活に必要なスキルが身につくよう支援している。	
	□小遣いの用途については、子どもの自主性を尊重し、不必要な制限を加えず、計画的な使用等金銭の自己管理ができるよう支援している。	○
	□発達段階に応じて、電話の対応、ネットやSNSに関する知識などが身につくように支援している。	○
	□地域での生活を見据えて、発達段階に応じて一人での受診や、市役所、図書館、郵便局などの公共機関、交通機関を利用するなど、様々な生活技術を学ぶプログラムを実施している。	

【判断した理由・特記事項等】

高学年の子どもの在籍が増えており、退所後に必要な生活技術の習得に向けて、発達段階に応じた体験ができるよう工夫している。小遣いの自主管理を支援したり、担当職員との買い物、バスの乗り方の指導、高校生にはスマートフォン利用についての勉強会を開催している。低学年の子どもに必要な体験プログラムの実施については、今後の改善を待ちたい。

④	A4 子どもに暴力・不適応行動などの行動上の問題があった場合には、適切に対応している。	b
	□行動上の問題がある子どもについては、訴えたいことを受け止めるとともに、問題となる行動を観察・記録し、誘引や刺激等の要因、人的・物的環境との因果関係を分析し治療・支援を行うとともに、自分の意思を伝えるための適切な方法を学ぶ機会を設けている。	○
	□行動上の問題のある子どもについて、その特性等をあらかじめ職員間で情報の共有化をはかり連携して対応できるようにしている。	○
	□子どもの心身を傷つけずに対応するとともに、周囲の子どもの安全を図っている。	○
	□自傷他害の危険性が極めて高いと判断されるなど、子どもの安全確保等のために他に取るべき方法がなく、子どもの最善の利益になる場合に限り、マニュアルに基づいて行動等の制限が最小限の範囲で行われ、その記録が残されている。	○
	□行動等を制限するケアについて、具体的な例を示して職員に周知するとともに、子どもに知らせ、子どもが納得できない場合、苦情解決制度やその他の方法を用いて改善を求めたり意見を述べるができることを知らせている。	○

【判断した理由・特記事項等】

施設では「クールダウン室の利用及び居室制限を用いた治療支援に関する取扱要領」を策定し、内容の検討を重ねている。クールダウン室を活用する目的と基本方針、必要とするケースの概略を示し、行動制限を行う際には記録をとって対応している。行動化するおそれのあるケースについては職員間で情報共有がなされ、危険から周囲の子どもの安全が守れるような配慮がなされている。子どもには苦情解決制度を通じて納得のできない処遇について意見を述べる権利があることを知らせている。落ち着いてから担当職員と行動を振り返り、言葉で意思を伝える練習を行っている。今後も職員が一丸となって、子どもの最善の利益を考慮した行動制限の取扱いに取組むことを期待したい。

(2) 子どもの意向への配慮や主体性の育成

①	A5 日常生活のあり方について、子ども自身が自分たちのこととして主体的に考えるよう支援している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもが自分および自分たちの生活がより良くなるように考える機会(個人面談、子ども会など)をさまざまに用意している。	○
	<input type="checkbox"/> 活動、行事等の参画について、子ども一人ひとりの選択を尊重し、自発的な参加となるように支援し、日常生活を含め行事等のプログラムに追われることなく、ゆとりある生活が過ごせるよう配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 子ども自身が自分たちの生活全般について、自主的・主体的な取組ができるような活動(施設内の子ども会、ミーティング等)を実施し、子どもの自己表現力、自律性、責任感などが育つよう、職員は必要な支援をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもが主体的に小集団活動、行事の企画・運営に関わることができる。	○
	<input type="checkbox"/> 活動で決定した要望等について、施設や職員は可能な限り応えている。	○

【判断した理由・特記事項等】

ユニット単位で、定期的に「子ども会議」を開き子どもが生活について考える機会を設けている。「野球部」等部活動の中でのミーティングでの役割分担や、意見箱に入っていた提案から実施へ移す際など、子どもに主体性を持たせ役割を体験させていくような支援を行っている。同時に日々の日課は規則正しい治療・支援を中心に、行事に追われることのないよう配慮している。子どもからの要望に対しては会議で検討に挙げ、可能な限り応えようとしており、今後もさらに検討の頻度・回答への時間短縮が図れるよう期待したい。

②	A6 子どもの協調性を養い、他者と心地よく過ごすためのマナーや心遣いができるように支援している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設のルール、約束ごとについては、話し合いの場が設定されており、必要に応じて変更している。	○
	<input type="checkbox"/> 社会生活の規範等守るべき約束ごとを理解できるよう子どもに説明し、それらを尊重した行動をとるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 外出や買い物など社会的ルールを習得する機会を設けている。	○
	<input type="checkbox"/> 普段から、職員が振る舞いや態度で模範を示している。	○

【判断した理由・特記事項等】

年度初めや長期休み前等に子ども会議を開催し、社会的ルールを確認する機会として話し合いの場を設定している。会議準備や進行を職員が行うことで、全員が発言しやすい雰囲気作りを心がけている。また、昨年全職員で内容の検討を行い、生活のルールブックを改訂。子ども達の意見を汲みつつ、より分かりやすい言葉や表現に変更されている。「みんなの安心・安全を守る」ことが集団生活のルールとして子どもと職員の意識に定着している。立地条件と入居者の特性上、外出や買い物に出る機会は少ないものの、個別ケースに応じて可能な限り対応している。他者への関わり方は心理治療との兼ね合いからソーシャル・スキルズ・トレーニングが中心となっている。また、職員に好ましくない言動があった場合は他の職員が間に入り、物理的な距離を取ってクールダウンを図るなど、職員間で指導方法の確認が行われている。改善内容や良い指導方法等についてはユニットを超えて情報共有や意見交換をすることにより、更なる支援の向上を期待したい。

(3) 子どもの権利擁護・支援

① A7 子どもの権利擁護に関する取り組みが徹底されている。	c
<input type="checkbox"/> 子どもの権利擁護について、施設としての基本的な考え方や方針が明示され、それに基づく規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。	○
<input type="checkbox"/> 子どもに権利擁護に関する取組が周知され、規程・マニュアル等にもとづいた治療・支援が実施されている。	○
<input type="checkbox"/> 子どもとの関わりが得られない親の対応に、適切な親権の行使として未成年後見制度などの活用を視野に入れた支援を行っている。	
<input type="checkbox"/> 権利擁護に関する取組について職員が具体的に学習や検討する機会を定期的に設けている。	○
<input type="checkbox"/> 権利侵害の防止と早期発見するための具体的な取組を行っている。	○
<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等の思想や信教の自由を保障している。	○
<input type="checkbox"/> 子どもの保護のために、児童虐待防止法12条の「面会等の制限等」を適切に行っている。	○

【判断した理由・特記事項等】

「子どもの最善の利益を常に追求すること」は施設の基本理念にも謳われており、毎月開催される職員の会をはじめに職員全員で唱和し確認を行っている。また、新採用職員研修で子どもの権利擁護に関する研修を実施している他、権利擁護に関する研修の機会を多く設けており、職員の意識が高い。子ども達は各々の居室で「子どもの権利ノート」を管理し、常に守られていることを意識できる環境になっている。未成年後見制度については、必要時には活用できるように備えることを期待したい。

② A8 子どもに対し、権利について正しく理解できるよう支援している。	a
<input type="checkbox"/> 定期的に子どもの状態に応じて権利についての理解を深めるよう、権利ノートやそれに代わる資料を使用して日常生活の中で起こる出来事を通して、守られる権利について子どもたちに説明している。	○
<input type="checkbox"/> 日々の生活や行事等で、子どもが助け合い、認め合い、協力し合い、感謝し合う態度を促進するよう支援している。	○
<input type="checkbox"/> 施設内の子ども間の暴力、いじめ、差別などの問題の発生予防のために、施設内の構造、職員の配置や勤務形態のあり方についても点検を行うとともに、起こった場合の早期対応について子どもや職員に周知している。	○
<input type="checkbox"/> 施設だけでは暴力やいじめに対する対応が困難と判断した場合には、児童相談所の協力を得ながら対応している。	○

【判断した理由・特記事項等】

「みんなの安心・安全を守る」を全職員で徹底し、日々のやり取りでも子どもに理解を促している。個別の権利に関しては、入所時の施設長面談で「子どもの権利ノート」の読み合わせを通して理解を深めている。子ども間でのトラブルに関しては、原則職員が介入し、子ども任せの解決は避けている。施設内での問題を未然に防ぐため、職員の配置や勤務形態のあり方についてできる限り配慮している。隣接する学校との連携が密に行われており、情報共有を徹底することで早期対応や問題の予防につながっている。

(4) 被措置児童虐待の防止等

①	A9 子どもに対する不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりについて、具体的な例を示し、職員に徹底している。	○
	<input type="checkbox"/> 会議等で取り上げる等により不適切なかかわりが行われていないことを確認している。	○
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの防止の視点から、職員体制の見直し等の検討・取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの防止について、具体的な例を示して、子どもに周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりがあった場合の対応方法等を明文化している。	
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待の届出・通告制度について対応マニュアルを整備し、研修会などで職員に周知・理解をはかっている。	

【判断した理由・特記事項等】

不適切な関わりの防止と早期発見について、施設内職員研修実施のほか、外部機関による子ども・職員への聞き取りやケアを実施している。子どもとの関わり方について、職員同士が気兼ねなく指摘し合えるよう話しやすい雰囲気作りを心がけている。不適切な関わりについての報告書から対応が蓄積され、各会議や研修を通して改善が図られている。虐待の届出・通告や体制整備については担当者が行っている。職員への十分な周知や対応方法の整備等、今後も不適切な関わりを防ぐための体制づくりを進めていくことが望まれる。

A-2 生活・健康・学習支援

(1) 食生活

①	A10 食事をおいしく楽しく食べられるよう工夫し、栄養管理にも十分な配慮を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもが日々の食生活に必要な知識及び判断力を習得し、基本的な食習慣を身につけることができるよう食育を推進し、皆と一緒の食卓で楽しく食べられることを目指して一人で食べることから始めるなど、プロセスを踏むことが保障されている。	○
	<input type="checkbox"/> 温かいものは温かく、冷たいものは冷たくという食事の適温提供に配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの年齢や子どもの体調、疾病、アレルギー等に配慮した食事を提供している。	○
	<input type="checkbox"/> 食に関する課題のある子どもへの具体的な取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 陶器の食器等を使用したり盛りつけやテーブルの飾りつけの工夫など、食事をおいしく食べられるように工夫している。	○
	<input type="checkbox"/> 定例的に子どもの嗜好や栄養摂取量を把握し、献立に反映させ、好き嫌いをなくす工夫や偏食支援については、無理が無いよう配慮し実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの発達段階や課題に応じて食事の準備、配膳、食後の後片付けなどの習慣や簡単な調理など基礎的な調理技術を習得できるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 郷土料理、季節の料理、伝統行事の料理などに触れる機会を持ち、食文化を継承できるようにしたり、外食の機会を設け、施設外での食事を体験させている。	○

【判断した理由・特記事項等】

日々の残量記録、職員の検食簿や子どもからの直接の聞き取り、毎年2月に食に関するアンケートの他、日頃からの意見箱や子ども会議等を通して食に関する希望や意見調査を実施。成長期に合わせた栄養面に配慮しつつ、食事の楽しさが伝わり、美味しく食べられるよう家庭的な料理を意識して色々な料理に触れられるよう献立に反映させている。特に季節や行事に合わせたメニューや、誕生日を迎えた子どもには希望メニューを提供するなど、子どもが食事を楽しむにしていることがアンケート結果にも表れている。子どもの特性を踏まえながら陶器の食器は一部に使用。プラスチック製の食器がメインだが、家庭的な雰囲気を感じるデザインをそろえている。また、年2回の調理実習では昼食づくりとおやつづくりを実施。個々の必要性に応じ、退所前に個別で弁当づくりの調理実習を行うなど基礎的な調理技術の習得ができるよう支援している。

(2) 衣生活

① A11 子どもが衣習慣を習得し、衣服を通じて適切に自己表現できるように支援している。	a
<input type="checkbox"/> 気候、生活場面、汚れなどに応じた選択、着替えや衣類の整理、保管などの衣習慣を習得させている。	○
<input type="checkbox"/> 発達段階に応じて、整理整頓、洗濯やアイロンがけ、衣類の補修等、子ども自身でできるように支援している。	○
<input type="checkbox"/> 発達段階や好みに合わせて子ども自身が衣服を選び、購入できる機会を設け、個々の収納スペースを確保するなど、「自分の服である」という所有感を持てるようにしている。	○
<input type="checkbox"/> 毎日取り替える下着や、汚れた時などに着替えることができる衣類が十分に確保され、常に衣服は清潔で、体に合い、季節に合ったものが着用されるよう提供している。	○
<input type="checkbox"/> 発達段階や課題に応じて、TPOに合わせた服装や自己表現ができるよう配慮している。	○

【判断した理由・特記事項等】

現在入所中の子どもの特性上、アイロンがけや針を使う衣類の補修は行っていないものの、上履き洗いや布団シーツ交換は毎週行うなど清潔への意識を向上できるように支援している。気候や生活場面に応じた衣服の選択、整理整頓は日課を通して取り組み、低学年の子どもは職員と一緒に自分の希望を伝えながら着替えのセットを行うなど発達段階や課題に応じた個別対応に配慮している。日用品支給簿を付けており、靴下や下着類は定期的買い換え、衛生面にも配慮している。

(3) 住生活

① A12 居室等施設全体を、生活の場として安全性や快適さに配慮したものにしている。	b
<input type="checkbox"/> 居室は、自分の空間であることを認識する場であるとともに、発達段階や課題に合わせた安心できる空間となっており、リビングスペース等くつろげる空間を確保するように努めている。	○
<input type="checkbox"/> 子どもの年齢や発達状況にあった、空間や家具、生活機材が用意されている。	○
<input type="checkbox"/> 必要に応じて、冷暖房設備を整備している。	○
<input type="checkbox"/> 居室の清掃や補修など、施設内外の保健的環境の維持及び向上に努めている。	○
<input type="checkbox"/> 防犯のためのオートロックや防犯カメラなどを設置している。	○

【判断した理由・特記事項等】

居室は一人部屋と二人部屋があり、子どもの特性に応じて居室を割り振っている。個のプライベートエリアを大切にし、他児の居室への立ち入りは制限されている。子どもが自分で部屋のネームプレートやポスターをアレンジして過ごしやすい環境を整えている。集団生活を前提としているため居室や共有スペースの空間は統一された設備となっているが、安全で快適な配慮がなされている。今後の家具購入時や施設改修時には、可能な限り子どもの年齢や発達に応じた家具、生活機材の整備が望まれる。

②	A13 発達段階に応じて居室等の整理整頓、掃除等の習慣が定着するよう支援している。	b
	<input type="checkbox"/> 居室の整理・整頓、掃除の習慣や洗濯、ふとん干し、各居室のごみ処理などの生活習慣を身につけられるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 戸締り、施錠の習慣や、電灯、エアコンなどの操作を身につけられるように支援している。	
	<input type="checkbox"/> 自分の部屋や共有空間についての様々な工夫について子どもの意見を取り入れている。	○
	<input type="checkbox"/> 掃除機や洗濯機、ドライヤーや電気髭剃り等の生活に関わる機器の使用に配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 建物・設備の軽度な破損について、簡単な修理を体験できるように配慮している。	

【判断した理由・特記事項等】

低学年の子どもや発達段階に応じて職員と一緒に整理整頓や掃除に取り組むなど、個別の支援が行われている。現状での施設特性上、施錠やエアコン操作、衣類洗濯は職員が行っている。退所前には洗濯機の使い方の練習を行っている。ドライヤーやシェーバーはスタッフルームで管理され、必要時のみ貸し出している。器物の破損について、必要時は子どもにも修繕に立ち会ってもらい、物の大切さや他人への迷惑、自分の気持ちのコントロールを促している。修繕内容によっては子どもと一緒に修理するなど、今後の対応に期待したい。

(4) 健康と安全

①	A14 発達段階に応じて、身体の健康（清潔、病気、事故等）について自己管理ができるよう支援している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもの発達段階や課題に応じて、常に良好な健康状態を保持できるよう、睡眠、食事摂取、排泄等の状況を職員が適切に把握している。	○
	<input type="checkbox"/> 洗面、歯磨き、入浴時に体や髪を洗うことなど清潔を保つための支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもが自分の体調について注意を払うように支援し、体調について相談しやすいように努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの発達段階や課題に応じて、危険物の取扱いや危険な物・場所・行為から身を守るための支援を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 子どもの交通事故防止など、様々な危険から身を守るため、交通ルールや外出時の注意点、緊急時の対応の仕方等について日頃から子どもに教え、準備をしている。	

【判断した理由・特記事項等】

外部講師を招いたり、人形を使った説明で視覚的に分かりやすく清潔の大切さや身体の洗い方の指導を実施。シャワールームは個室となっており、子どもの使用時に職員が入ることはないが、入所したばかりの低学年児童について必要があれば無施錠やプライバシー保護を配慮しつつ直接指導することもある。トイレの使用時間が長い時などには声かけをし、体調を確認。子どもが自分の体調について相談しやすい環境作りに配慮している。特に気持ちや体調不良を説明するのが苦手な子どもに関しては現場でのユニット会議を通して、子どもが相談しやすい声かけについて意見交換するなど共通認識を図って支援している。外出の機会が少ないため、交通ルールに関しては交通安全指導の学習会等を検討中であり、今後の取り組みに期待したい。

②	A15 医療機関と連携して一人ひとりの子どもに対する心身の健康を管理するとともに、異常がある場合は適切に対応している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもの平常の健康状態や発育・発達状態を把握している。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の医療機関との連携により、必要な受診に即応できる体制がある。	○
	<input type="checkbox"/> 健康上特別な配慮を要する子どもや服薬管理の必要な子どもについては、医療機関と連携しながら服薬や薬歴のチェックを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 薬物の管理及び服薬の手順を施設として定めている。	○
	<input type="checkbox"/> 受診や服薬が必要な場合、子どもがその必要性を理解できるよう、説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 様々なアレルギーへの対応や、救命救急対策などについて組織的に行っている。	○

【判断した理由・特記事項等】

「ノアーズ・ガーデン診療所」を併設しており、必要に応じた診療・処方を行っている。精神科の薬を含め処方薬は医務室にて看護師が管理。服薬管理も、二重チェックの体制が取られている。精神科以外の他科受診について、地域医療機関への受診は子どもの不安がないよう施設看護師が付き添い、病状の説明や診断の確認を行っている。月1回の避難訓練に加え、救急救命講習の実施、AED研修を行っている。アレルギーに対しては、調理にて除去食を準備。児童本人の注意促しと同時に、おかわり等で混在しないよう職員間での声かけが意識されている。今後は緊急時の対応について、フロー図をスタッフルームに張り出す等、全職員が同じ手順で対応できるような仕組みづくりに期待したい。

(5) 性に関する支援等

①	A16 子どもの年齢・発達段階等に応じて、性をめぐる課題に関する支援等の機会を設けている。	b
	<input type="checkbox"/> 発達段階や課題に応じて性に関する支援の基本的な考え方、方針を定めている。	○
	<input type="checkbox"/> 性被害、性加害など性に課題のある子どもに対する支援を自立支援計画をもとに行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 年齢、個々の状況、発達段階に応じて、性をめぐる諸課題について支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 性をめぐる不適切行動を予防する取組をしている。	○

【判断した理由・特記事項等】

施設職員で「人権・性教育委員会」が設置され、「性と生」の勉強会を開催するなど年齢や発達段階に応じた性教育を実施している。また、年2回外部講師を招き人形を使った性教育を通して、性問題を未然に防げるよう支援している。特に性被害、性加害などの課題があった子どもに対しては、入所前に性課題への取り組み参加の同意を得ている。今後は、施設外での行動も含めて、プライベートな話題でも子どもが相談しやすいよう、さらなる信頼関係の構築に期待したい。

(6) 学習支援、進路支援等

①	A17 学習環境の整備を行い、学力等に応じた学習支援に取り組み、「最善の利益」にかなった進路の自己決定ができるよう支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 常に子ども個々の学習に対する構え、学力を把握し、それらに応じた個別的な学習支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設の子どものための分級や分校などの学校教育が用意され、日々の子どもの状況の変化等に関する情報が、学校・施設間で確実に伝達できるシステムが確保され、個々の子どもに対する生活支援、学習支援及び進路支援等を相互に協力して実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 静かに落ち着いて勉強できるように個別スペースや学習室を用意したり、学習支援のため、ボランティアの協力を得るなどの配慮をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 進路選択に当たって、保護者等、学校、児童相談所の意見を十分聞くなど連携している。	○
	<input type="checkbox"/> 学校で生じた子どもの行動上の問題に対しては、学校に協力して対応し、ケースカンファレンスには原則として施設と学校の担当者が参加して検討している。	○
	<input type="checkbox"/> 退所後に通学する学校との連携が適切にとられている。	○

【判断した理由・特記事項等】

各自の居室を中心に学習環境の整備を行い、試験前には個別で学習の場を提供するなど細かい配慮をしている。生活支援における職員配置上、施設職員が直接学習指導をすることは難しいが、学校との連携を密にし、希望する進学校を職員と一緒に調べて居室に張り出すなど、目標を明確にし、進路の自己決定ができるよう支援している。今後については心理を学ぶ学生等を学習支援ボランティアとして受け入れる事が検討されている。

A-3 通所支援

(1) 通所による支援

①	A18 施設の治療的機能である生活支援や心理的ケアなどにより、通所による支援を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 様々な通所プログラムを策定し、子どもの自立支援を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 在宅の子どもの生活実態を的確にとらえ、それに基づき適切な支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 在宅の子どもや家族の支援として通所支援を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて訪問による支援を実施している。	○

【判断した理由・特記事項等】

施設退所後のアフターケアの一環として、多くの子どもが通所措置へ変更されている。施設内クリニック利用や家庭支援専門相談員を中心とした家庭訪問を通して生活支援や心理的ケアを実施している。送迎サービスは行っていないため、保護者による都合で休むなど計画通りに実施できない事はあるものの、退所後の心の拠り所として信頼関係が継続できるよう努めている。通所が途切れた子どもに対する対応や関係機関との情報共有など、引き続き細やかな支援に期待したい。

A-4 支援の継続性とアフターケア

(1) 親子関係の再構築支援等

①	A19 施設は家族との信頼関係づくりに取り組み、家族からの相談に応じる体制を確立し、家族関係の再構築に向けて支援している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設の基本方針等に、家族への支援や家族療法等に関する基本的な考えや姿勢が示されている。	○
	<input type="checkbox"/> 個々の子どもに家族担当を設け、日常的な連絡や気軽な相談の窓口として活用できるよう案内し、子どもの日常生活の様子や学校、地域、施設等の予定や情報を定期的に家族に伝えている。	○
	<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員を独立した専門職として配置し、その役割を明示している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもと家族の関係の再構築、家族再統合が可能となるように、児童相談所と協力して親子関係の修復や保護者等の養育力の向上のためのプログラムを継続的に実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの家族との交流について、子どもの意思を尊重し、面会、外出、一時帰宅については、児童相談所等と協議し、個別性に配慮しながら、一定のルールや基準を定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 親子が必要な期間一緒に過ごせるような設備を施設内に設けて、家族支援の趣旨に沿った活用がなされている。	○

【判断した理由・特記事項等】

家庭支援専門相談員を中心に家族支援を実施。家族関係の再構築のために、自立支援会議で考え方や意見の擦り合わせを行っている。自立支援計画に家族支援の項目を設け、評価を実施。家族に対して施設生活の様子を伝える他、子どもの特性理解を促したり治療の状況説明等、医師と心理士を交えた「家族心理教育」を実施している。家族の関係性に応じ、施設内の親子交流室を活用して宿泊交流を実施するなど段階的な家族関係再構築を支援している。家族支援で得た情報から子どもの支援に必要な情報を職員間で共有し活用できる体制構築に期待したい。

②	A20 子どもが安定した生活を送ることができるよう退所後の支援を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 通所機能や外来機能を利用して、退所後の支援を継続して行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 退所後何年経っても施設に相談できることを伝えている。	○
	<input type="checkbox"/> 退所者の状況の把握に努め、記録している。	
	<input type="checkbox"/> 地域の関係機関と連携し、退所後の生活の支援体制の構築に努めている。	○

【判断した理由・特記事項等】

退所者の多くが通所支援につながっており、継続支援ができています。施設開所から4年と退所者自体が少ない中で、通所が途切れた子どもへは手紙を送るなど対応を継続しているが、詳細な状況の把握が難しい状況である。今後は退所者が相談しやすい体制づくりと定期的な同窓会を開催するなど、関係が途切れないような体制整備が求められる。